

第5回 企業部会幹事会

2019年11月22日(金) 14:00～ ホテルニューオータニ「AZALEA(アッザレーア)」

Check Point

企業部会とは

一企業や一業界の枠組みを超え、国民的な課題に対して真に議論し、この国をよくしていくという趣旨のもと設立された企業会員で構成される会です。生団連内の議論を深める場として、消費者部会とも連携を図りながら、今後も継続開催してまいります。

第5回「企業部会幹事会」が開催され、業界団体会員を中心とする企業部会幹事メンバーと、役員企業会員有志で、今期の重点課題等について議論が行われました。

議題1では、4つの重点課題の座長からそれぞれ報告をいただいた後、参加者との意見交換がなされました。



▲小川会長／企業部会長

【議事内容】（意見一部抜粋）

■ 議題1・・・2019年活動計画 重点課題についての活動・進捗報告および今後の方向性(各委員会より)

①「国家財政の見える化」の実現に向けて

「見える化」の実現に向けて、「具体的な議連への提言内容」を取り進めていく。3年の予算シーリングなどを進める前提として、まず複雑な現状をしっかりと整理して進めて欲しい。「見える化」が最優先。

②「生活者としての外国人」の受入れ体制の構築に向けて

「教育を含めた喫緊の課題」への取り組みを最優先に進める。受入れによる分断社会の発生を防ぐには企業が責任をもって受入れることが必要。また、地域としても受入れる体制を整えなければならない。企業・コミュニティ倫理綱領作成を進めてはどうか。

③「エネルギー・原発問題」の国民的議論に向けて

原発が良い悪いではなく、「事実」を国民へ周知する必要がある。生団連として整理を進め、そしてエネルギー政策に対する生団連のコンセンサスを形成していく。核廃棄物を含む原発の問題は、その議論の前提として国民が事実を知る必要がある。生団連としてファクトを発信していく。そして、再エネを含め、エネルギー政策について生団連としてのコンセンサスの形成を図り、しかるべきタイミングでの提言を目指していきたい。

④「生団連災害情報ネットワーク」の構築に向けて

NPOなどの「既存の支援団体と連携した生団連サプライの体制構築」を検討する。今年の台風被害は広範囲に渡ったため、報道にも偏りがあり、ボランティアが足りないという状況も起きている。改めて生団連の支援体制を整理して進めてほしい。



▲「国家財政の見える化」委員会 座長
キリンビール 布施社長



▲外国人の受入れに関する委員会 座長
三菱食品 森山社長



▲「エネルギー・原発問題」委員会 座長
高島屋 鈴木会長

■ 議題2・・・「地域生団連」構想 ～「埼玉県生団連」発足準備報告

■ 議題3・・・消費者部会 報告